

埼玉県民の森 「春の自然観察会」

期 日：2022年5月3日

参加者：29名

ガ イ ド：木口明浩、西田宗史

主 催：（公社）埼玉県農林公社

天 候：晴れ（気温 16℃）

報告者：木口明浩



コロナ禍のため、2年連続で中止となっていた本イベントが、3年ぶりに開催されました。厳しい自粛ムードからやや解放され、ゴールデンウィークを謳歌しようとする人々で秩父方面に向かう国道299号は混雑していました。そのせいで数名の参加者がやや遅ましたが、よく晴れたカラフルとした空気の中、トラブルもなく気持ちよく歩くことができました。

全体の行程は次の通りです。

午前：【遊歩道】管理事務所～ヒノキ林～沢～広葉樹～遊歩道～デイキャンプ場（昼食）

午後：【管理道】デイキャンプ場～炭窯～管理事務所

参加者が多いため、大まかにグループ分けするというかたちをとり、観察を開始しました。当日、観察できた中で特に印象的だったものを紹介します。



◆ヒトリシズカ

日当たりのよい歩道沿いに十字対生の4枚の葉とその中央から白いブラシのような花穂が立ち上がっていました。株状に群がっていることが多く、決して「一人」ではないところがおもしろいポイントです。



◆ミツバツチグリ

葉は小葉が3個で、粗い鋸歯を持った橢円形です。黄色い花は小さいがよく目立ち、個体数も多くみられました。ツルキンバイやキジムシロとよく似ていますが、前者の葉はひし形で後者のそれは、5～9枚であることから識別できます。



◆フデリンドウ

鮮やかな空色で小さいながらもよく目立ちます。地際の根生葉が小さく、ロゼット状にならないのが特徴です。日当たりのよい乾いたところで見られます。



◆ルイヨウボタン

葉がボタンに似ていることから「類葉牡丹」という意味です。ミズナラや木オノキが多い広葉樹林の中の斜面に群生していました。黄緑色の花は地味ですが、独特の繊細な雰囲気がありました。



◆ギンリョウソウ

広葉樹林の落ち葉に隠れるように咲いていました。厚く積もった腐葉土に生える腐生植物で白く透き通った鱗とうつむいたように見える姿を竜に見立てられました。



◆ミツバコンロンソウ

沢筋などの湿ったところにみられます。高さ 10 cm 程度で落葉をかき分けるように、小さな白い花を咲かせていました。崑崙山に積もる白い雪に例えられたといわれています。



◆イカリソウ

葉は卵形で基部はハート形、縁にはとげ状の毛があります。四方に長く飛び出した「距」が船の碇に似ています。この独特な造形美は見ごたえがありました。



◆ミミガタテンナンショウ

林縁、林内のいたるところに多くみられました。栄養を蓄えて大きな個体になると雌花を咲かせるようになります。中を覗くと入った昆虫が出られずに息絶えていました。



◆トチノキ

ディキャンプ場の東屋の下に実生がありました。多くの実はシカなどの動物に食べられてしまいますが、こうして生き残ったものが発芽し稚樹となることが分かります。

表：観察できたもの（開花していたもの）

種	科	種	科	種	科
タチツボスミレ	スミレ科	ムラサキケマン	ケシ科	ギンリョウソウ	イチャクソウ科
ツボスミレ	スミレ科	ヤマエンゴサク	ケシ科	ミツバツチグリ	バラ科
ニオイタチツボスミレ	スミレ科	ジシバリ	キク科	ツルキンバイ	バラ科
マルバスミレ	スミレ科	センボンヤリ	キク科	モミジイチゴ	バラ科
アカネスミレ	スミレ科	ヒトリシズカ	センリョウ科	ヤマブキ	バラ科
ルイヨウボタン	メギ科	ニリンソウ	キンポウゲ科	ミツバツツジ	ツツジ科
イカリソウ	メギ科	トウゴクサバノオ	キンポウゲ科	ヤマツツジ	ツツジ科
ヒメハギ	ヒメハギ科	キランソウ	シソ科	トウゴクミツバツツジ	ツツジ科
フタバアオイ	ウマノスズクサ科	ジュウニヒトエ	シソ科	ミツバウツギ	ウツギ科
ムラサキキギゴケ	ゴマノハグサ科	ラショウモンカズラ	シソ科	ミズナラ	ブナ科
フデリンドウ	リンドウ科	ニッコウネコノメ	ユキノシタ科	ハウチワカエデ	カエデ科
チゴユリ	ユリ科	ミツバコンロンソウ	アブラナ科	ウリハダカエデ	カエデ科

カタクリやアズマイチゲ等の春の妖精たちは咲き終わっており、残っている葉もわずかでした。期待していたアケボノスミレ、サクラスミレ、ヒナスミレ、ナガバノスミレサイシンなどの華やかなスミレ達はすでに咲き終わっており、出会えなかつたのが残念でした。

一方、マムシグサの仲間は個体数も多く増えている印象を受けました。また、全体的に植物の開花時期が10年前に比べて早まっている気がしました。これも温暖化の影響だとすると、じわりと進行しているようで恐ろしくなります。毎年、同じ時季と同じ場所での記録が大切だと思いました。